

新たな経営目標の達成に向けて

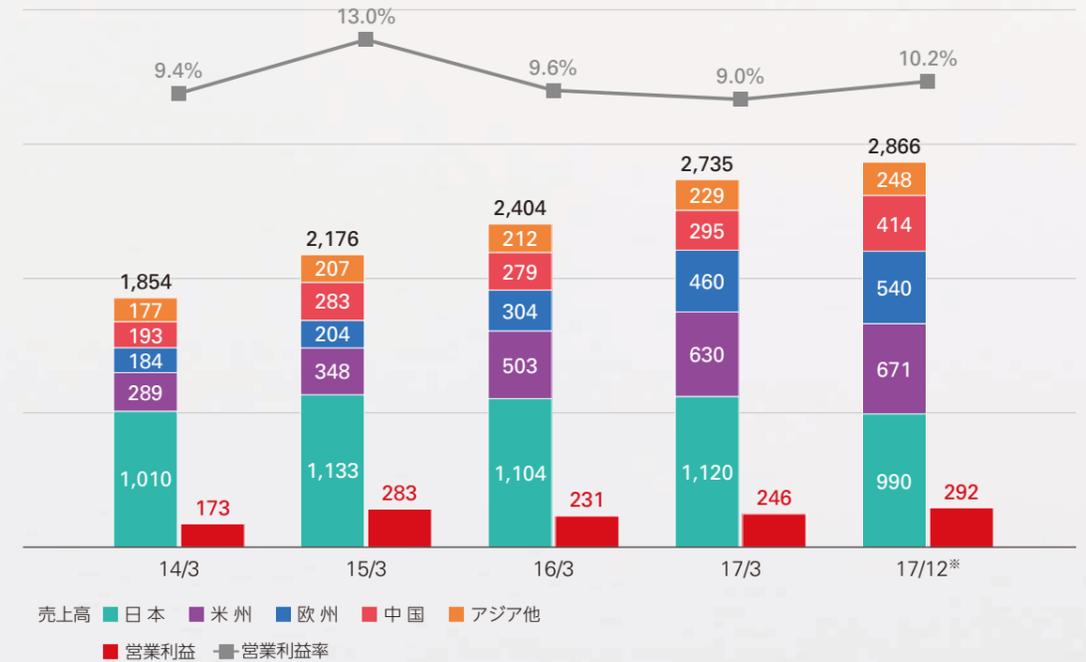


THK株式会社
代表取締役社長CEO

寺町 彰博

経営状況

(億円)



*3月期決算の連結対象会社は9カ月、12月期決算の連結対象会社は12カ月の変則決算となっています。

2017年12月期の振り返りと2018年12月期の展望

2017年12月期は、決算期を3月から12月に変更した移行期間であったことから、元々3月期決算であった連結対象会社は9カ月間、12月期決算であった連結対象会社は12カ月間の変則決算となりました。外部環境としては、欧米を中心とする先進国経済が引き続き回復基調で推移する中、中国をはじめとする新興国において経済に持ち直しの動きが見られ、世界経済は緩やかな回復が続きました。そのような中、当社グループでは、旺盛な半導体関連の投資に牽引されたエレクトロニクス向けに加え、自動化・ロボット化の加速を背景に一般機械向けや工作機械向けも拡大し、全般的に需要は好調に推移しました。それらの需要を売上高に繋げたことにより、連結売上高は前期比18.7%増の2,866億円となりました。

利益面では、増産に伴う人員や設備の増強など

により固定費が増加しましたが、売上高の増加に伴う数量効果が上回り、営業利益は前期比64.1%増の292億円となりました。さらに、THKリズムの全株式を統括子会社であるTRAホールディングス株式会社に譲渡したことの影響により、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比120.4%増の257億円となりました。

引き続き好調に推移する受注水準を踏まえ、2018年も産業機器事業を中心に旺盛な需要環境が見込まれます。そのような中、2018年12月期については、連結売上高は前期比9.8%増の3,500億円、営業利益は前期比23.6%増の900億円と、売上高及び各利益項目において過去最高を計画しています。この計画達成のみならず、拡大する需要に対応すべく、可能な限り手を尽くして生産能力を増強し、お客様への供給責任を果たしていく所存です。

経営目標の策定

これまで当社グループが長期経営目標として掲げていた連結売上高3,000億円については、2017

年12月期の決算期間を12カ月間ベースに調整すると3,188億円となり超過するため、新たに2022

経営目標	
2022年度	
連結売上高	5,000億円
営業利益	1,000億円
ROE	17%
EPS(一株当たり当期純利益)	560円

【ポイント】基本戦略の継続とそのさらなる強化
【前提条件】為替1ドル=105円 IMF世界経済成長率 3.8%平均

産業機器事業	単位:億円				輸送機器事業	単位:億円			
	FY17	FY18	...	FY22		FY17	FY18	...	FY22
売上高	2,022	2,350	...	3,500	売上高	1,166	1,150	...	1,500
営業利益	332	425	...	900	営業利益	32	25	...	100

*輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値

年度を最終年度とする5カ年後の経営目標を策定しました。この経営目標では連結売上高5,000億円、営業利益1,000億円、ROE 17%、EPS(一株当たり当期純利益)560円を設定しています。

その達成に向けては、基本戦略である「グローバ

ル展開」、「新規分野への展開」、「ビジネススタイルの変革」に何ら変更はありません。引き続きこれらを強力に推し進め、産業機器事業及び輸送機器事業におけるトップライン拡大とボトムライン強化に向けたそれぞれの取り組みを加速させていきます。

産業機器事業における取り組み

産業機器事業では、12カ月決算ベースに調整した2017年12月期の売上高2,022億円から約1,500億円アップの3,500億円を目指します。市場平均成長率は年率8%を想定しており、今後、既存市場において拡大が見込まれる需要を着実に取り込むことに加え、幅広い顧客向けの販売拡大や新規分野の開拓をはじめとする各種取り組みにより、さらなるトップライン拡大を図ります。

幅広い顧客向けの販売拡大に向けては、膨大な数の顧客向けに効率的な営業活動を推進しています。2017年12月期の実績としては、グローバル展示会の集客数は前年度比で2.5倍となり、当社の認知度をグローバルで高めることができました。ASEANを中心に展開しているECサイト「Omni THK」の登録者数は2017年末時点で7,700名まで増加しました。2018年は中国、ブラジルにも対

応エリアを拡大し、当社の営業拠点がない地域を含めた世界各地のお客様が、いつでも・どこでも・簡単に、当社製品を購入できるような仕組みを構築してまいります。さらに、幅広い顧客向けの市場で蓄積した市場ニーズを基に新たな商品企画も進めています。2017年より販売を開始したセミオーダー品はアクチュエータを中心に取扱品目を拡大しており、自動化に貢献する各種メカトロ新製品も展開を進めています。このように、既存市場における旺盛な需要に対応しつつも幅広い顧客向けの販売拡大に向けた各種取り組みを着実に進めており、今後もさらに強化してまいります。

そのような中、産業機器事業におけるトップライン拡大を支えるべく、世界各地における増産投資を積極化させています。2018年1月にはTHK常州精工(中国)における増産設備が稼働しました。2018年10月にはTHK MANUFACTURING OF VIETNAM(ベトナム)、11月には山形工場(日本)と、それぞれの敷地内の新たなスペースで増築新工場が稼働予定です。さらに2018年8月にはインドの新工場を着工し、2020年に稼働予定です。世界各地で拡大している足元の需要への対応は勿論のこと、自動化・ロボット化の進展を背景に中長期的な拡大が見込まれる需要を着実に取り込むため、引き続き生産体制の強化を図ってまいります。

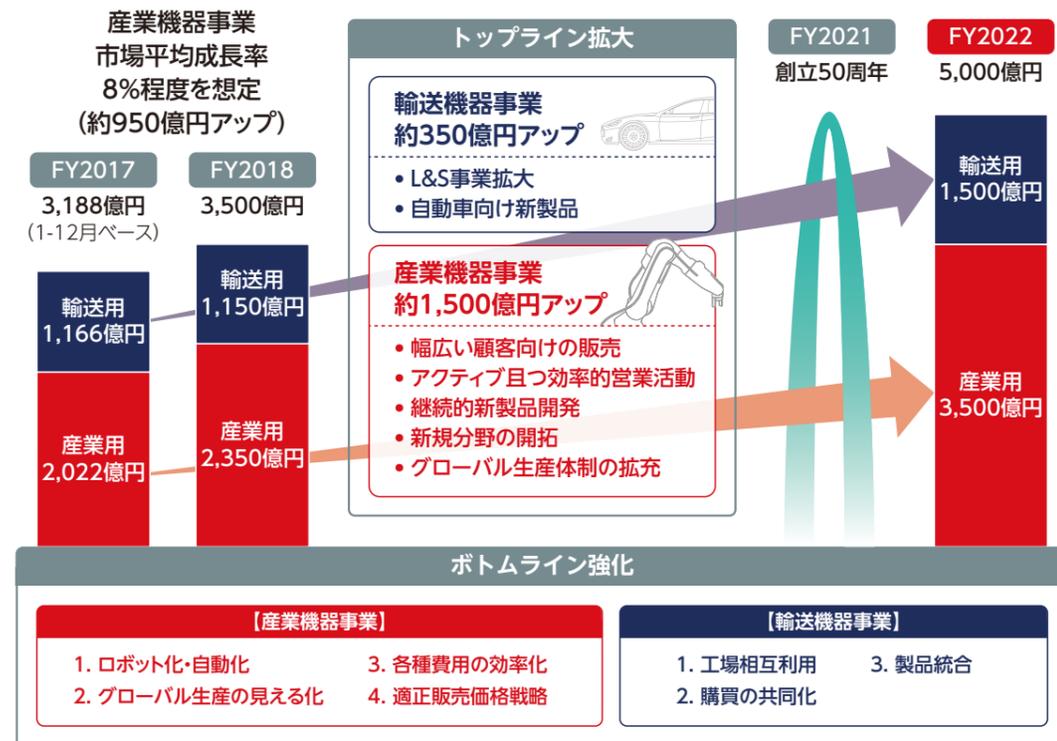
新規分野の開拓では、医療機器、免震・制震装置、航空機、ロボット、再生可能エネルギーをはじめ、様々な分野で拡大を図っています。ロボット関連では、簡単且つリーズナブルにモバイルマニピュレータを構築可能なプラットフォームロボット「SEED Platform Robots」によるサービスを開始しています。さらに、新製品開発のみならず、各種ロボット関連のコンテストにおけるスポンサー活動



も行っており、ロボット産業の発展に貢献すべく積極的な活動を展開しています。再生可能エネルギー関連では、小さな力で軽く滑らかに動き、大きな荷重を受けられる当社製品の特性を活かし、機構部品としての採用拡大を図っています。2017年は台風時にも発電可能な風力発電機を世界で初めて開発した株式会社チャレナジーに、風力発電機用シャフトユニットの製品供給を開始しました。今後もこれらをはじめとする新規分野における活動を進めることにより当社製品の用途拡大を図り、市場を開拓してまいります。

そして、これらトップライン拡大に向けた取り組みに加え、ボトムライン強化にも引き続き取り組んでいます。その中の一つである「グローバル生産の見える化」では、2017年に導入したイーグルシステムから様々な施策を展開しています。具体的にはリアルタイムで機械の稼働状況を、端末を通じて作業員や管理者に伝えることにより、生産活動における最適な判断を促進し、全体の稼働率向上を図っています。さらに、稼働率データの蓄積と分析により、全体の工程の負荷状況が見える化し、生産アウトプットの向上を図っています。今後もこれら各種施策を推進することで飛躍的な生産性向上を目指します。

中長期的な成長に向けた取り組み



■ 輸送機器事業における取り組み

輸送機器事業では、売上高1,500億円、営業利益100億円を達成すべく各種取り組みを積極化させていきます。自動車の足回り部品であるL&S(リンケージ アンド サスペンション)事業では、THKリズムとTRAの相互の販売・生産体制を活かした受注活動を展開しています。自動車向け新製品については、2018年2月より直動新製品の出荷を開始しました。今後も、自動車の電動化・自動化を追い

風にこのような新製品の展開を加速させていきます。加えて、世界各地で増産投資も強化しており、トップライン拡大に向けた体制構築を着実に進めています。今後もこれらの取り組みを強力に推し進めることにより、経営目標の達成は勿論のこと、長期的な輸送機器事業の事業価値向上を図っていきます。

■ 長期的な成長に向けて

今後もテクノロジーの発展や産業の高度化に伴い、当社製品への需要は中長期的に拡大していくものと考えられます。そうした需要にお応えし、メーカーとしての供給責任を果たすべく、生産能力の増強を積極化させるとともに、各種コストの低減にも努め、収益性の強化も図っていきます。さらに産業用機械の高機能化、省エネルギー化などに貢献してきた当社製品の市場を拡大させることこそが、産業界への貢献、及び人手不足や環境問題をはじめとす

る社会的課題の解決に繋がると考えています。

当社は社会にとって必要不可欠な企業として引き続き、社会貢献に繋がる活動に取り組みます。そして、長期にわたる持続的な成長を実現し、企業価値を増大させ、株主様をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待にお応えします。皆様方におかれましては引き続きご支援賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

2018年4月

THK株式会社
代表取締役社長CEO

